

令和3年度太田市教育行政方針

太田市教育委員会

令和3年4月

目 次

1	教育行政の推進	1
2	義務教育の推進	2
3	高校教育の充実	9
4	青少年の健全育成	10
5	文化財の保護活用	12

1 教育行政の推進

(1) 教育行政方針の作成

○教育行政方針を毎年作成し、取り組むべき施策や目標を具体的に示します。

(2) 教育行政の点検・評価の実施

○実施した施策について教育委員会自らが評価を行い、学識経験者の意見を付して公表します。また結果は次年度以降の教育行政に活かします。

(3) 奨学金制度の充実

○有用な人材の育成

進学の意欲と能力がありながら、家庭の経済的な理由により高校や大学等で学ぶことが困難な者に対して、奨学金を貸与し有用な人材の育成に努めます。また、安定した運営にも努めます。

○制度周知の推進

広報をより強化し、支援が必要にも関わらず制度の存在を知らない学生の減少に努めます。

・参考：太田市奨学金申請者数

令和2年度奨学生 高校生等1名、大学生等19名

令和3年度奨学生 高校生等0名、大学生等17名

○利便性の向上

太田市奨学金の申請の機会を増やし、奨学金制度の更なる利便性の向上を目指します。

○返還減免制度

太田市奨学金の返還減免制度を創設し、将来の太田市の担い手となる若者の生活を支援します。

○収納率の向上

太田市奨学金返還金の収納率を向上させ、適正な債権管理に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
太田市奨学金返還の収納率 ※現状値(R2 年度)は決算見込み	現年度 93%	現年度 95%	現年度 98%
	過年度 22%	過年度 16%	過年度 18%

(4) 就学援助制度及び子育て支援制度の充実

○就学援助制度

経済的理由によって就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、学校給食費、学用品費、新入学学用品費、校外活動費、修学旅行費等の援助を行い、義務教育の円滑な遂行を図ります。

また、就学援助制度の適切な運用、きめ細かな広報等に取り組み、活用と充実に努めます。

○子育て支援制度

これまでの第2子学校給食費の半額助成及び第3子以降全額助成事業から、第2子の学校給食費も全額助成とし、第2子以降全額助成事業を行うなど、子育て支援制度の一層の充実に努めます。

2 義務教育の推進

(1) 学校経営の充実

○「生きる力」の育成

学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の適切な編成と確実な実施及び適正な評価に努めるとともに、きめ細かな指導を通して、知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」の育成に努めます。

○教職員の職能成長

ワーク・ライフ・バランスを保ち、自らの人間性を高め、意欲と高い専門性をもって、効果的な質の高い教育活動を行うために、学校・教職員の担う業務の明確化と適正化を図り、教職員の職能成長に努めます。

○信頼される学校づくり

教職員一人一人の危機管理意識を高め、家庭・地域・関係機関と連携して安全・安心で信頼される学校づくりに努めるとともに、学校評価等を活用し、教育課題解決に向けて教職員の創意・工夫を生かした組織的・協働的な取組に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
学校評価の「組織運営」の自己評価(年度末)の結果が「A」となる学校の割合(小・中:学校評価)	93.8%	93.2%	100%

(2) 確かな学力の確実な定着に向けた指導の充実

○毎時間の授業の充実

学力向上を推進するため、1時間1時間の授業の質の向上に努め、児童生徒に確かな学力が確実に身に付くよう努めます。

○きめ細かな支援の充実

おたん教育支援隊を配置し、授業中の個別支援や放課後等の有効活用により、一人一人がわかる喜びを味わい、学ぶ意欲や学力の向上に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
「全国学力・学習状況調査」における全国の平均正答率との差(小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 -0.7	小6 未実施	小6 +1.0
	中3 -0.2	中3 未実施	中3 +1.0
家庭等での学習時間 小6 平日1時間/日以上の割合 中3 平日2時間/日以上の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 66.6%	小6 未実施	小6 75%
	中3 32.0%	中3 未実施	中3 50%

※表記について 義務教育学校1年～6年：小1～小6 7年～9年：中1～中3 以降同様

(3) 人権・道徳教育の充実

○人権教育の推進

全教育活動を通して計画的に人権教育の推進を図るとともに、家庭や地域への啓発に努めます。

○心の教育の充実

児童生徒や家庭・地域の実態を踏まえ、道徳教育の一層の充実を図るとともに、いじめを許さない心や生命を大切にする心、思いやりの心、規範意識を重視する心等、実社会や実生活とのかかわりを大切にする心の教育に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小・中学生の割合(小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 95.5%	小6 未実施	小6 100%
	中3 95.2%	中3 未実施	中3 100%
人権教育年間指導計画の見直し、改善を実施している学校の割合(小・中・高:人権教育推進状況調査)	小 100%	小 100%	全校種 100%
	中 100%	中 100%	
	特支 100%	—	
	高 100%	高 100%	

(4) 生徒指導の充実

○生徒指導体制の充実

効果的な指導体制の確立や教育相談体制の整備・充実、児童生徒一人一人の自己実現への指導援助に努めます。

○日常の指導の充実

あいさつの励行など基本的な生活習慣の定着と規範意識の高揚を図ります。

○不登校への対応

不登校の未然防止・早期対応に向けて組織的な取組を積極的に進めるとともに、不登校専門員や教育支援隊、ふれあい教室、おおたん通信教室や研究所等と連携を図り、不登校児童生徒の削減に向けて支援の充実に努めます。

○いじめ防止対策の充実

いじめの未然防止と「いじめ一報制」を活用した早期発見・解決に向けた取組を進めるとともに、児童生徒の主体的な取組を支援します。

○問題行動等への対応

問題発生時には、全教職員協力のもとに素早く家庭や関係機関と連携を図り、早期解決に努めます。特に、暴力4行為については、「問題行動第一報」を活用し、早期の対応に努めます。

○児童虐待への対応

「児童虐待一報」を活用して、関係機関と連携を図るとともに、事後の継続観察も充実させます。

○情報モラル教育の充実

携帯電話やインターネットの使用に関わる指導を含めた情報モラル教育の一層の推進に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と答えた小・中学生の割合(小・中:全国学力・学習状況調査)	小6 97.7%	小6 未実施	小6 100%
	中3 96.3%	中3 未実施	中3 100%
いじめを自分のことと考え、いじめ防止活動に主体的に取り組んだ児童生徒の割合(小・中:いじめ問題取組状況調査)	小 96.1%	小 96.1%	小 100%
	中 88.9%	中 100%	中 100%
年間欠席30日以上の不登校児童生徒の人数(小・中:月例報告) ※現状値(R2 年度)は見込み	小 103 人	小 95 人	小 90 人
	中 204 人	中 200 人	中 190 人

(5) 学校体育と学校保健の充実

○体力の向上と生涯スポーツの基礎づくり

新体力テストの結果を通じた児童生徒の実態に基づき、課題を明確にした指導内容・指導方法の工夫を通して指導の充実を支援するとともに、各種大会の運営を補助します。

「する、みる、支える、調べる」などの多様なスポーツとの関わり方について、学ぶ機会を提供します。

○児童生徒の健康管理対策事業

各学校において、学校医・学校歯科医、関係機関と連携し、児童生徒の疾病や新型コロナウイルスなど学校感染症の予防と、更には薬物乱用の防止等、健康の保持増進と管理に努めます。

○学校保健会の充実

学校保健関係者への情報提供や研修、児童生徒の健康診断に関する連携・協力、学校保健講演会及び研究協議会を中心に健康教育の推進に努めます。

○教職員健康診断の実施と労働安全衛生管理体制の充実

教職員の健康診断の充実や疾病の早期発見及び健康増進に努めます。また、労働安全衛生法に基づいて労働安全衛生管理体制の充実を図り、教職員のメンタルヘルスを含めた健康管理に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
新体力テストの測定結果(全国平均を上回る検査項目数/検査項目総数)	小5男 0/8 小5女 0/8	未実施	小5男 4/8 小5女 4/8
	中2男 2/8 中2女 3/8	未実施	中2男 8/8 中2女 8/8
薬物乱用防止教室を開催している学校の割合 (公立小中学校、市立太田高校)	小 26/26 中 17/17 高 1/1	未実施	全校種 100%

(6) 特別支援教育の充実

○個のニーズに応じた特別支援教育の充実

障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成、活用した指導に努めます。

○切れ目ない支援体制づくり

各園から小学校など移行期において情報を丁寧に引き継ぎ、切れ目ない支援の充実に努めます。また、適切な就学先の決定に向けた相談支援を進めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
公立学校における教員の特別支援教育研修受講割合(小・中:特別支援教育体制整備状況調査)	100%	100%	100%
障がいのある児童生徒の在籍する公立学校における個別の支援計画・個別の指導計画の策定割合(小・中:提出状況)	特別支援学級在籍児童生徒 100% 通常の学級在籍児童生徒 100%	特別支援学級在籍児童生徒 100% 通常の学級在籍児童生徒 100%	特別支援学級在籍児童生徒 100% 通常の学級在籍児童生徒 100%

(7) キャリア教育の充実

○望ましい勤労観・職業観の育成

教育活動全体を通じて、発達段階に応じたキャリア教育の充実に努め、望ましい勤労観や職業観を身に付けさせます。

○自己有用感、夢や希望の育成

自己の個性を理解し、自己有用感や将来に対する夢や希望の持てる指導に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
将来の夢や目標を持っている小中学生の割合 (小・中:全国学力・学習状況調査)	小 87.1%	未実施	小 100%
	中 72.2%	未実施	中 100%

(8) 外国人児童生徒・外国語教育の充実

○国際教室・初期指導教室の指導の充実

ブロック別集中校システムを基にした国際教室や初期指導教室(プレクラス)による指導体制を一層充実させ、個に応じたきめ細かな日本語指導に努めます。個別の指導計画の改善・充実に図り、目標を明確にした取り出しによる日本語指導の充実に努めます。多言語による進路ガイダンスを開催し、生徒と保護者への啓発を図ることにより、生徒のよりよい進路の実現に努めます。

○英語によるコミュニケーション能力の育成・充実

国際社会に対応できる人材育成に向け、英語によるコミュニケーション能力の育成・充実に努めます。また、教職員を対象とした英会話教室を実施し、教職員の資質向上を支援するとともに、小学校英語教育の指導充実に努め、小中のなめらかな接続を図ります。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
中学校を卒業した外国人生徒のうち、就職又は進学した者の割合(中3外国籍生徒:外国人生徒進路状況調査) ※現状値(R2 年度)は見込み	91.8%	95%	100%
中学校3年生までに英語検定3級以上取得者の割合(中学3年生:英語教育実施状況調査)	26.4%	未実施	32%



(9) 安全教育の充実

○生命の尊重を基盤とした安全教育を推進

交通事故の未然防止に向けて「自分の身は自分で守る」安全意識の高揚を図ります。また、自然災害等に備えた防災教育の一層の充実に努めるとともに、自校の緊急時対応マニュアルに基づいた避難訓練を実施し、改善と充実に努めます。

○地域・関係機関と連携した安全対策や防犯体制の確立

通学路安全推進会議を機能させ、各学校の通学路安全点検の結果及び地域の声を踏まえて、関係機関と連携しながら安全対策を進めます。また、スクールガードリーダーの活用を図り、地域ぐるみの安全体制の強化を図ります。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
児童生徒を対象とした防犯教育(不審者対応避難訓練を含む)の実施率(安全教育に関する調査)	小 100%	小 100%	小 100%
	中 82.4%	中 100%	中 100%
交通安全教育の実施率(安全教育に関する調査)	小 100%	小 100%	小 100%
	中 100%	中 100%	中 100%

(10) 情報教育の充実

○情報活用能力の育成

GIGA スクール推進担当者等、各校のリーダーを育成するとともに、各教科等において、児童生徒の発達段階に応じた情報教育に関する内容を計画的・系統的に行うことにより情報活用能力の育成に努めます。

○太田市 GIGA スクール構想の実現

主体的に学ぶとともに、自らの考えを伝えたり、他者の考えを理解したりする協働的な学びを通して、新たな価値を見出したり、問題を解決しようとする児童生徒の育成に努めます。

○情報モラルの育成

インターネット等を利用時に守るべきルールやマナーを身に付けさせることにより、情報モラルの育成に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
授業中に ICT を活用して指導できる教員の割合 (小・中教員:学校における教育の情報化の実態等に関する調査) ※現状値(R2 年度)は見込み	小 61.2% 中 71.7%	小 62% 中 72%	100%
インターネットを利用するときの守るべきルールやマナーを身に付けている小・中学生の割合(小・中:児童生徒の学習・生活実態調査) ※現状値(R2 年度)は見込み	98.5%	98.6%	100%

(1 1) 環境教育の推進

○持続可能な社会づくりへの参画

計画的・継続的な環境教育や児童生徒の主体的なエコ活動の推進、家庭や地域への積極的な啓発を通して、人と環境との関わりについて正しい認識に立ち、持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材の育成に努めます。

(1 2) 食に関する指導の充実

○計画的な食に関する指導の推進

学校給食が生きた教材として活用されるよう、献立内容の充実に努め、各教科等と関連付けた食に関する指導を推進します。

○食育セミナーの実施

小学生とその保護者を対象に、食育に関するセミナーを開催し、体験活動を中心とした食育の推進に努めます。

(1 3) 小中連携・小中一貫教育の推進

○義務教育9年間を見据えた指導

義務教育9年間を見通し、発達段階を踏まえた継続的な指導を行うことによって学力向上を図るとともに、不登校や生徒指導問題等の中一ギャップの解消を目指し、小中学校のなめらかな接続を図ります。

○小中一貫教育の推進

義務教育学校「北の杜学園」において、小中一貫による9年間の切れ目のない教育活動を行い、多様な児童生徒が幅広い異年齢交流の中で協働し、互いの個性を認め、尊重し合える豊かな人間性を育みます。

(1 4) 中高一貫教育校の充実

○共通の教育目標の基、中高が連携した6年間の一貫した特徴あるプログラムを通して、確かな知性、豊かな人間性、たくましい心身を培い、高い志をもち、自ら未来を拓く生徒を育てます。

○海外研修や外国人との交流事業など多くのグローバル人材育成事業を通して、郷土や異文化理解を図るとともに、コミュニケーション能力の育成に努めます。

○「市立太田」の教育理念や方針・教育環境・適性検査(中学)や入学者選抜(高校)等について、小中学校の児童生徒・保護者・教職員・地域へ、積極的に周知するとともに、課題解決に向けて、太田中、太田高、教育委員会の三者で中高一貫教育推進本部会議を定期的開催し、課題解決を図ります。

○生徒数や部活動活性化に伴う施設不足や既存施設の老朽化対策として、学校用地取得事業を着実に推進し、用地取得後の道水路及び校庭造成工事等を計画的に進めます。

(1 5) 学校の施設・設備の整備充実

○給食室整備事業

太田市立東中学校及び藪塚本町南小学校の学校給食室の完成を目指します。

○大規模改修事業

老朽化したトイレの大規模改修事業を実施します。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
大規模改修事業(トイレ)の実施率	2 校 実施率 5.3%	5 校 実施率 18.4%	2 校 実施率 23.7%

(16) 学校給食の充実

○衛生管理

「安全でおいしい学校給食」を提供するため、衛生管理の徹底を図ります。

○地場産農産物活用の促進

地場産農産物活用量及び活用品目を増やすよう努めます。

○給食費収納対策の強化

太田市債権管理条例に基づき、債権の適正な管理を行い、収納率のさらなる向上に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
学校給食における太田市産食材の使用割合	野菜 18.1%	野菜 33.2%	野菜 35.0%
	米 100%	米 100%	米 100%
学校給食費の収納率(1月末現在)	56.6%	55.4%	60.0%



3 高校教育の充実

(1) 高校教育の充実

- 普通科と商業科が融合し、地域に根差した特色ある学校づくりに取り組み、高い学力や専門知識の習得に努め、生徒一人ひとりの進路実現を目指します。また、部活動等特別活動を推進し、学校の活性化を図り、個々の生徒の人間力の育成に取り組みます。
- 外部人材の活用や高大連携を推進し、キャリア教育の充実を図り、生徒に高い志を持たせ、難関大学等への合格を目指すべく校内指導体制を一層充実させます。
- 各種検定試験の高い合格率とよりランクの高い検定の合格を目指すとともに、第一志望企業への就職を目指します。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
高校卒業時の地元企業への就職率（商業科）	62.5%	52.5%	63.0%
各種検定3種目1級取得率の推進（商業科）	65.2%	42.0%	67.0%
現役卒業生の進学率（普通科）	84.2%	84.5%	85.0%

※現状値（R2 年度）は見込み

※地元企業への就職率は、高校卒業時の市内就職者数を就職者数で割った百分率（%）

※3種目1級取得率は、3種目以上1級合格者数（商業科3年）を生徒数（商業科3年）で割った百分率（%）

※現役卒業生の進学率は、大学・短期大学等進学者数を高校卒業生数で割った百分率（%）

(2) グローカル[※]人材育成事業の推進

- 地元企業・大学と連携したグローバル人材育成事業を通して、生徒が主体的な取組により、地元企業への真の理解を深め、地元産業界に貢献するグローバルな感覚とローカルな感覚を持ち合わせたグローバルな産業人材として、将来地元企業へ定着することを目指します。

※グローバル（Global）とローカル（Local）を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する（Think globally, act locally）」という考え方です。

◎太田市



4 青少年の健全育成

(1) 心豊かでたくましい青少年の育成

○青少年交流事業の実施

青少年交流事業は、小・中学生を対象に派遣先自治体の特色を生かした体験活動や交流活動、キャンプ体験活動等を通して、豊かな心とたくましさを兼ね備えた太田っ子の育成を図るとともに、青少年の健全育成に努めます。また、交流先である北海道稚内市、青森県弘前市（隔年実施）の小・中学生の受け入れを行い、相互の交流を深めるとともに、郷土の文化や歴史を大切にする心を育てます。

○「太田市サイエンスアカデミー」の開催

市内在住または在学の小学生を対象に、サイエンス(科学)に触れるきっかけを提供することで、興味や関心を高め「ものづくりのまち太田」の将来を担う青少年の育成を図ります。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
青少年交流事業:事後アンケートでの参加して“良かった”以上の回答率	99%	未実施	100%
サイエンスアカデミー:事後アンケートでの参加して“良かった”以上の回答率	90%	100%	100%

(2) 青少年の社会参加活動及び青少年団体活動の促進

○中学生ボランティア体験活動事業の開催

中学生がボランティア体験活動を行うことにより、社会の一員としての規範意識や他人を思いやる心を身に付けさせ、心豊かな中学生の育成を図ります。

○青少年団体等に対する活動支援

青少年団体及び青少年関係団体を対象に各種研修会を開催し、指導者の養成に努めるとともに、求めに応じて必要な助言を行い、活動を支援します。

○成人式の実施

二十歳の青年の新しい門出を祝福し、成人がお互いにその喜びを分かち合い、社会からの信頼と期待に応えられる社会人となるための自覚と認識を促進するために実施します。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
中学生ボランティア参加者数(実施回数)	145 人(3 回)	169 人(3 回)	170 人(3 回)
太田松茸道中参加者数	98 人	未実施	100 人
成人式出席率	75%	57.9%	76%



(3) 地域ぐるみ健全育成運動の推進

○青健推モデル支部指定事業の推進

各地区青少年健全育成推進会議においてモデル支部を指定し、健全育成活動の充実を図るとともに、その活動発表会を通して、活動の輪を広げることを支援します。

○太田市青少年健全育成大会の開催

青少年の健全育成・非行防止にかかわる団体及び青少年団体の関係者が一堂に集まり、青少年健全育成・非行防止に向けた活動をより一層活発に展開します。

成果指標

指標の概要	(R元年度)	現状値 (R2年度)	目標値 (R3年度)
太田市青少年健全育成大会参加者数	348人	未実施	350人

(4) 非行防止対策の充実と健全育成

○街頭補導による環境浄化活動の実施

青少年健全育成団体と協力して、組織的・計画的に駅周辺や大型商業施設・盛り場等の不良行為が行われやすい場所を巡回し、「声かけ」活動を通じ、早期にぐ犯・不良行為少年を見つけて指導することで、非行防止や健全育成に努めます。

また、有害図書やピンクチラシの除去に努めるなど環境浄化活動を推進します。

○電話、メール、面接による相談事業の充実

青少年センター相談員が、月曜日～金曜日（祝日を除く）の午前9時～午後4時30分の間、電話や面接での相談に応じます。メールについては24時間受け付けします。（返信は平日）

成果指標

指標の概要	(R元年度)	現状値 (R2年度)	目標値 (R3年度)
街頭補導延べ参加人数(回数)	954人	985人	1,120人
※現状値(R2年度)は見込み	(132回)	(128回)	(145回)

(5) 青少年教育施設の適切な運営管理と利用促進

○青少年教育施設の適切な運営管理の実施

利用者が安全・安心に施設を利用できるよう保守管理および計画的な補修・修繕を行い、利用者数の増加を図ります。

成果指標

指標の概要	(R元年度)	現状値 (R2年度)	目標値 (R3年度)
金山の森キャンプ場利用者数	4,289人	1,698人	4,300人
宝南センター利用者数	19,454人	9,927人	6,100人
※現状値(R2年度)は見込み			

5 文化財の保護活用

(1) 文化財の保護・活用

○文化財の保護・活用

文化財の保護・活用及び普及・啓発を図るため、発掘現場における現地説明会やスタンプラリー、を開催するとともに、文化財防火デーに伴う模擬火災訓練等を行います。また、市民との協働体制を築くため、無形民俗文化財の後継者の育成に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
スタンプラリー申込者数	3,648 人	未実施	3,500 人

(2) 埋蔵文化財の保護と調査の充実

○埋蔵文化財の発掘調査

市内における各種開発に伴う発掘調査を実施し、埋蔵文化財の保護を図るとともに、駒形神社埴輪窯跡等の整理作業を実施し、発掘調査の充実に努めます。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
埋蔵文化財最新情報展の入場者数 ※現状値(R2 年度)は見込み	6,454 人	2,000 人	3,000 人

(3) 史跡等の整備と活用

○史跡金山城跡整備事業の推進

金山城跡の管理・活用を推進するとともに、史跡整備に向けての基礎資料の集積に努め、老朽化した復元整備済の遺構等の修繕を進めます。また、「金山城保存会」との協働により、史跡金山城跡のガイドを行います。

○史跡上野国新田郡家跡の整備事業の推進

新田郡家跡の管理・活用を推進するとともに史跡整備に向けての準備作業を行います。

○史跡天神山古墳・女体山古墳整備事業の推進

史跡天神山古墳・女体山古墳の管理・活用を推進するとともに史跡整備に向けての基礎資料の収集に努めます。

○史跡金山城跡ガイダンス施設の活用

国史跡の調査整備の成果等を広く周知するため、企画展を開催します。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
国史跡等に関する企画展の入場者数	7,677 人	3,359 人	3,500 人

(4) 資料館及び記念館等の充実

- 史跡金山城跡ガイダンス施設・太田市金山地域交流センター
年4回の企画展等を開催します。金山地域交流センター利用者の促進を図るため、講座・教室等事業の充実を図ります。
- 太田市中島知久平邸地域交流センター
国指定重要文化財「旧中島家住宅」を公開（建物内は一部のみ公開）するとともに、耐震診断を実施し、保存活用計画の策定を進めます。
- 新田荘歴史資料館
新田荘を中心とした資料の常設展示を行うとともに、企画展、講演会や児童を対象とした「ストラップ作り教室」を開催し、資料館及び記念館等の中心館としての役割を担います。
- 縁切寺満徳寺資料館
満徳寺遺跡公園の維持管理を行なうとともに、縁切文書に関わる常設展や企画展、江戸文化に関わる特別展を開催します。
- 高山彦九郎記念館
高山彦九郎に関する常設展示を行うとともに、企画展や講演会・「高山彦九郎日記」学習会を「高山彦九郎研究会」との協働事業として実施します。また、閉館する藪塚本町歴史民俗資料館の収蔵資料等を、2階の企画展示室等で展示して資料と施設の有効活用を図ります。
- 藪塚本町歴史民俗資料館
「太田市立資料館及び記念館等条例」ほか法令の改正を行うとともに、関連手続きを円滑に進めて閉館します。また、閉館後の建物解体に向けたアスベスト含有調査を行い、収蔵資料の整理及び移動を計画的に行います。
- 大隅俊平美術館
所蔵する刀匠大隅俊平の刀剣の保全を図り、定期的な展示替えを行うとともに、刀剣に関する企画展を開催し、刀剣や日本文化に関わる講座を行います。

成果指標

指 標 の 概 要	(R 元年度)	現状値 (R2 年度)	目標値 (R3 年度)
史跡金山城跡ガイダンス施設・太田市金山地域交流センター入館者数	30,690 人	20,000 人	21,000 人
太田市中島知久平邸地域交流センター入館者数	9,493 人	3,000 人	3,500 人
新田荘歴史資料館入館者数	11,229 人	4,000 人	4,500 人
縁切寺満徳寺資料館入館者数	10,484 人	5,500 人	6,000 人
高山彦九郎記念館入館者数	3,179 人	500 人	1,000 人
大隅俊平美術館入館者数	4,169 人	1,200 人	1,300 人
資料館及び記念館等の総入館者数	69,244 人	34,200 人	37,300 人

※現状値(R2 年度)は見込み



太田市